

うとしたのですが、州はそれが自然を破壊することにつながるとして許可しなかったのです。自然を壊してはいけないという意識が、とても高いんですね。

ケビン そうですね。ヨーロッパではかなり前から自然破壊が進んでいて、そのせいで人間がどれ程苦しくなるか、実感があるんですよ。だから自然保護の意識が進んでいる。でも日本では、壊れた自然の怖さを認識していないから、そこが重要ですね。

4 日本の森の特徴

ケビン 市長もお分かりだと思いますが、里山は、近くにあっても本当にありふれた、自然な風景なんです。だから存在するときは、あつて当然と思う。そして、なくなったときに初めてその大切さに気づくんです。でも、なくしてからでは本当に遅すぎるんですよ。

市長 ケビンさん、日本の現状を考えて、自然を保護することがこれからでも間に合うと思いますか。

ケビン まだ大丈夫。でも10年か20年後には非常に大変な事態になりそうですね。日本は自然の再生の早い国だと言われています。木の生長が早いんです。例えば、空き地ができて、そこにススキが生え、そのうちコナ

ラが生えて...と、10年か20年で林に戻ります。それは土壌や雨量が、生長の早い種類の木に適しているからでしょうね。だから、森に戻すということでは安心です。ただ、森は手を入れないとどんどん変わっていきます。最終的な森の姿である極相林ごくさうりんになるには、とても時間がかかるんです。人が作った森は、見ればすぐに分かります。例えばこの公園ですが、コナラだけでなくクヌギも多い。これは明らかに人工林の証拠です。クヌギは自然には生えてきませんが、そして、クヌギは炭や薪を得るためにとても適しています。だから昔から人の手で植えられ、守られてきた便利な木ですし、ここはそういう風に使われてきた森だということに分かりますね。

市長 そうですか。炭焼きのためにあるような森なんですね。

ケビン 炭焼きは、雑木林の保護のために必要な作業ですから、行政でも応援してあげてほしいですね。20年から30年ごとに木を切つて、炭の原料にすれば良い。イギリスには同じような炭焼き用の雑木林があつて、現在市民団体が積極的に守るうとしていきます。

市長 そういった、里山を守るためのNPO活動についてももう少し教えていただけますか。

ケビン これは本当に重要な活力で



す。私の住んでいる千葉県の印西市もそうですが、狭山市も人口密度が高い都市です。そしてそこに暮らしている人々にとって、日常の中に自然があることがとても重要なんです。だから、ただ自然を守るだけでなく、日常生活の中に自然を取り込み、重要性を実感できるような活動が大切です。

市長 具体的にどんな方法が通じているのでしょうか。

ケビン 理想的なのは、農家ではない人が農家の人に維持管理のノウハウを教えるもたらつて、実行するということなんです。

市長 ヨーロッパの先進国には

そういうノウハウがあるんでしょうか。

ケビン はい。どこの国にもその土地に合ったカントリーサイドを維持管理する、伝統的なノウハウがあります。

5 子どもの教育と住民参加

市長 子どもたちにそういう体験をさせることも重要ですね。

ケビン そうですね。今、総合学習というのが進められていますから、その中で自分の町の自然や、それを守ってきた文化、暮らしを知って、感動することが理想です。これは環境教育の基本だと思います。

市長 実際に川を見て水に触つて何がすんでいるか、どう守っていくのが良いのかということを考えるんですね。林の中に入つたら、自然が本当に心地よくさせてくれるものだということが分かります。その体験が自然を守る気持ちを生み、育てるのです。

ケビン 市長、それにはこんな教育が理想的だと思います。まず、子どもたちが落ち葉掃きをして、農家の手に手伝ってもらいながらその落ち葉で堆肥を作り、それを学校の農園で使つて野菜を作る。この体験こそ、本当に質の高い総合学習で、環境教育と言えらると思います。

